

2012年

新年の抱負

新年の抱負	総務長	佐瀬	霞山
俳句部・新年の抱負	俳句部	林	玄妙
茶道部・新年の抱負	茶道部	佐藤	妙珠
剣道部・新年の抱負	剣道部	岡根谷	無刀
壮年部・新年の抱負	壮年部	林	道清
女性部・新年の抱負	女性部長	林	翠松
学生部・新年の抱負	学生部長	松田	大愚
青年部・新年の抱負	青年部長	粕谷	玉道
禅フロンティア・新年の抱負	...禅フロンティア主宰	笠倉	玉溪

新年の抱負

総務長 佐瀬 霞山

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、3月11日に東日本大震災があり、又台風などの災害もあり大変な一年でありました。復興、復旧に向かって歩を進めておられる方々に対しお見舞い申し上げます。

さて、総務長として、人間禅の本年度の抱負について、二点述べさせて戴きます。

第一点は、昨年9月の本部摂心会円了茶礼の総裁垂示で「人間禅は布教の為の伝法であります。伝法が本当に正しくなければ、布教はあり得ない」と申されました。法を正しく伝えていく為の摂心会、参禅会等は今まで通り、宗教法人人間禅で厳修して参りますが、布教に付きましては、一般社団法人を立ち上げて、数息観を中心としたセミナー・企業研修・講演会等の活動を通して布教活動をしっかり推進したいと考えております。

具体的には、大きく分けて「心の豊かさを求めて」、「自己を探し、鍛えよう」、「地域と共生」という三分野を構成していきたいと思っております。

宗教法人人間禅と一般社団法人を車の両輪として、伝法と布教とに分けて推し進めて参りたいと思っております。どちらが欠けても世界楽土の建設は出来ません。皆様のご理解とご協力をお願い致します。一般社団法人に関しましては、宗教法人の名称では受け入れが難しい大企業、公共施設、公的機関等への布教の時に随時使用していければと考えております。

第二点は、平成23年9月の時点で、名誉会員の会員数は137名で御座います、1年半後の人間禅創立65周年には、名誉会員500名を目指したいと思います。

昨年、坂東支部は3か月で40名弱の方々に名誉会員を委嘱することが出来ました。各支部、各禅会で平均しますと、それぞれの支部・禅会で1年半の間に20名を目標に増やしていけば達成できます。各支部・各禅会は坂東支部を参考にされて積極的に名誉会員の獲得に力を注いで戴きたいと思います。尚、老師方始め名誉会員の方々におかれましても新しい名誉会員のご紹介についてより一層のご尽力を戴けるようお願い申し上げます。

名誉会員を増やして行く事は、人間禅の大切な布教につながると共に、アクティビティーを高める事にもなります。是非多大なるご協力をお願い致します。

最後に、名誉会員の方々、総裁老師始め各老師方、支部長・禅会長以下各会員の皆様並びにご家族及び関係各位の皆様のご健勝を祈念して総務長の新年の抱負とさせて戴きます。

合掌

新年の抱負

俳句部・新年の抱負

俳句部 林 玄妙

人間禅の俳句会は『合掌俳壇』として、長く機関紙『合掌』に掲載されてまいりました。平成22年9月よりその発表の場を、選者齋藤幽谷先生の主幹されております『俳句と些子記』誌に移させていただき、現在に至っております。『合掌俳壇』は現在約35名の投句者が健吟を

競っております。昨年各俳句会をまとめる意味で、人間禅俳句部が発足いたしました。人間禅創立者耕雲庵立田英山老師が、大いに俳句をおすすめになられたこともあり、俳誌『曲水』同人の方々をはじめ、現総裁のご尽力により、各道場でも俳句が盛んになりつつあります。昨年11月より、東京谷中、擇木道場で毎月行われております禅フロンティアのなかに、俳論の輪読が加わりました。はじめは禅的解釈の上甲平谷の『芭蕉俳諧』を取り上げましたが、あまりこだわらず楽しく俳句について語り合えばいいと考えております。俳句部としてどのような活動ができるのか、現在模索中です。俳句のみならず、短歌、その他文芸全般の発表の場としての『俳句と些子記』誌への参加を通して、齋藤幽谷先生を中心に、一人でも多くの方々の参加を期待しております。

合掌

新年の抱負

茶道部・新年の抱負

茶道部 佐藤 妙珠

平成24年を迎えて茶道部も新たな気持ちで出発をしたいと思っております。

今年で、茶道部が発足して5年目になります。それまでは、摂心会での朝の呈茶は、支部と茶道部の人数に応じて、毎日または一日置きに行っておりました。又、支部によっては石州流・肥後古流・裏千家・表千家・上田宗古流・有楽流等のお手前でお茶の呈茶が行われておりました。

茶禅一味参禅・茶会を通して、そのような違いが段々分かって来るに従って、茶禅一味の醍醐味を実感するようになりました。尚、摂心

会での朝の呈茶は、新たに茶道部が出来たことで、この5年間、益々盛んに行われてきております。

今年度、茶道部としては、5月に関東地区茶禅一味の参禅・茶会を、10月頃に京都で参禅会と茶会を、勿論全体の茶禅一味参禅会も行う予定であります。

新年の抱負

剣道部・新年の抱負

剣道部 岡根谷 無刀

新年明けましておめでとうございます。

今年の抱負を述べるに当たり、まず人間禅剣道部の平成23年までを振り返ってみます。

人間禅剣道部は、【人間禅は近代において日本剣道界の最高峰である無得庵小川刀耕老居士（小川忠太郎範士九段、以下小川先生）を輩出しており、その教えを受けた人間禅附属宏道会に限らず、人間禅全体として、「剣禅一味」の修行が出来るようにしたい】という趣旨で、平成20年春に設立されました。この趣旨に則り、本部道場においては毎年の宏道会創立記念式と併せて、またローカルにも熊本支部、関西支部、東海支部及び仙台静坐会において「剣禅一味の会」を開催してきています。また平成22年からは、擇木道場で行われている禅フロンティアの前に小川忠太郎述『剣道講話』の輪読会並びに参禅会を行ってきました。その結果、人間禅と一般剣道家との縁ができ、多数の入会者も得ることができました。

次に人間禅剣道部の平成24年は、新たに次の2つを目指していきたいと思います。

1 (直心影流法定の形) 武道修練会での参禅会実施

茨城県水戸市内原町にある農業実践学園では、「武道修練会」が長年行われて来ています。

この武道修練会は、小川先生が生涯にわたって指導された経緯があり、朝一番の日課には一炷香の坐禅があり、稽古の途中には法話があり、正に「剣禅一味の会」でありました。現在、剣道の指導は、小川先生の警視庁時代の弟子にあたる平野宜昭範士八段が担当されており、これに総裁老師を拝請して剣禅一味の参禅会としたいと思います。

2 オール九州での「剣禅一味の会」の開催

これまで熊本支部主催「直心影流法定の形体験会」を二度開催してきていますが、その名の通り小川先生に所縁のある剣道家の方々と鎮西、豊前支部の会員剣道家の坐禅と直心影流法定の形体験会に止まっています。これをオール九州に広げ各支部持ち回りの「九州地区剣禅一味の会」とし、関係ある剣道家を招き、剣禅一味の参禅会としたいと思います。

最後に、今年も一人でも多くの方が剣禅一味の修行に取り組めるよう活動していく所存であります。ご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。

新年の抱負

壮年部・新年の抱負

壮年部 林 道清

迎春。本年も宜しくお願い申し上げます。壮年部担当として一言抱負を述べさせていただきます。

昨年の壮年部の大きな活動は東日本大震災の後でしたが、第5回参禅会を市川市の人間禅本部道場で4月1日(金)～2日(土)、そして第6回参禅会を南海禅会と合同で和歌山市の南海禅道場で6月3日(金)～5日(日)に総裁老師のご巡錫を頂き実施致しました。

特に第6回は南海禅会の皆さんに非常に良い準備をして頂き、関西支部をはじめ全国の道友のご援助ご参加を頂き、更には10名の新到者の参加、2名の若手の見性と充実した参禅会で、無魔円了することができました。昨年の活動にご支援ご参加頂きました皆様大変ありがとうございました。

本年は23年度後半として第7回参禅会を熱海市の岳南禅道場で、4月13日(金)～15日(日)に計画しております。全国の壮年部の皆さん、どうかご支援ご参加宜しくお願い致します。

壮年部の65歳以上の私達が修行した時代は、高度成長時代からオイルショックと云う、ある意味恵まれた時代と困難な時代に修行をさせて頂き生き抜いてきたわけです。その法恩に報いること、そして人間禅を次代に継続させること、これが今、私達に課せられている課題だと思います。更なる努力を惜しまず、修行に精進して行きたいと思っています。

さて24年度の計画ですが、まずは各支部での壮年部静坐会(耳順会)を充実させて頂き、活動の目玉である参禅会を本年度と同様、第8回参禅会を西日本で6月頃に、第9回参禅会を東日本で25年4月頃に計画する予定です。本年も壮年部にご指導ご協力を、是非宜しくお願い致します。

合掌

女性部・新年の抱負

女性部長 林 翠松

あけましておめでとうございます。

今年が女性部が創設されてから19周年となります。発足当初から日本全国を4つのブロック（北海地区、関東地区、関西地区、九州地区）に分けて、ブロック単位での地区集會が行われてきました。最近では支部や自宅近辺など、身近な所での小さな集會や茶道部との協同集會も積極的に各地で行われています。各ブロック内に誕生した新支部設立を目指す禅會においては、新しい方々の活力と古い者の智慧とが融合して今年はより活発な活動が展開してゆくはずです。首都圏においては、禅フロンティアが禅子の密接な交流の場ともなっています。生活地域、各支部、各ブロックでの取り組みで蓄えられた女性の力は、人間禅全体の取り組みとして行われる行事に於いても自然に現れます。青年・学生部との合同参禅會は、遠方への参加が困難な人が多いという女性特有の事情を抱えながらも既に12回行われてきました。新年度も共に手を振り合い、励ましあいながらより充実させ、全国のお役に立っていただけると願います。

春には、女性部の編集・出版による2冊の本が発刊されます。一宇庵小野円照老師著『勝鬘夫人の告白』と緝熙庵内田慧純老禅子著『茶味 茶禅一味の茶について』です。両著とも女性の視点から、女性の感性で編集されました。緝熙庵内田慧純老禅子は女性部設立に尽力され、初代部長を長年務められました。女性部発足当時から毎春発行されております『あけぼの』も次号は19号となります。内容は年々充実したものとなり、好評頂いております。

新年度はこの三つの刊行物をフルに活用して、女性部の布教活動に

取り組んで参ります。

合掌

新年の抱負

学生部・新年の抱負

学生部長 松田 大愚

新年明けましておめでとうございます。

本年もご指導のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

昨年は、東日本を襲った未曾有の大震災や、大型台風の相次ぐ被害など、日本経済への深刻な打撃も懸念される大きな変化の一年でありました。しかし一方で、そのような厳しい状況のなかでの、日本人の力強い連帯意識や貢献の精神が世界的にも注目されながら、人々の意識が、一つの組織やコミュニティの枠を超えた「つながり」や「社会貢献」を基準にしたものへとシフトし始めているようにも思えます。

本年は、人間禅に学生部が創設されて3年目に入ります。学生部のメンバーもほとんどが中堅社会人となり、仕事や家庭の両立のなかで課題もあり、学生へのサポートに対して十分なアクティビティが割ける状況にないのが悩みの種です。

諸先輩方のお骨折りもあって伝統ある中央大学「禅の会」の再興がなされ、現役の学生が活動をしています。けれども、地方の学生参禅会への参加者数など数字的に見れば、まだまだ十分な成果ができているとは言えません。

もしかしたら、現在はむしろ、地方の若者へのテコ入れに乗り出すことではなく、足元への種を撒き直し、しっかりとした芽が出てある程度の幹に育つまで、一つずつ育む時期なのかも知れません。学生への「貢献」をベースに、足元からのご縁と時間をかけて育てて行きた

いと思います。

そうするなかで、さまざまな学生との出会い（点）が、線となり、やがて面となり、首都圏の青年部・学生部ネットワークとして結び付くなかで、禅フロンティアでの連携を頂きながら、次世代の若者が育っていきける素地が形成されていく姿を展望したいと思います。

足元のアクト・ローカルな実践の中から、他の地方や、ひいてはグローバルな共感と支援を得ることができる活動を、一歩ずつ力強く育んでいきたいと思っています。

本年も何卒、御指導のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

新年の抱負

青年部・新年の抱負

青年部長 粕谷 玉道

新年あけましておめでとうございます。

リーマンショックより続く不況、3・11の東日本大震災や放射能問題、13年連続年間自殺者3万人という厳しい現代を、たくましく生き抜くために、我々はどうすればよいのでしょうか。

禅は、東洋文化の長い伝統の中で磨き上げられてきた、すばらしい人間形成の道です。古来より、どのような激動の時代にあっても、禅の修行によって人間形成を図るとともに、禅の精神を自らの分野に生かして新しい自己を切り開き、おおいに社会に貢献した人がたくさんいます。

禅を、これからの時代を担う若者に広めていくことは、我々青年部にとっての責務であると考えています。時代の流れに沿った広報活動に力を入れていき、一人でも多くの若者とご縁をつなげたいと決意を新たにしています。本年もよろしくお願い申し上げます。

禅フロンティア・新年の抱負

禅フロンティア主宰 笠倉 玉溪

明けましておめでとうございます。

新年を迎えるにあたり、昨年の大地震で被害に遇われた方々、平成最悪の被害をもたらした紀伊半島等西日本での台風被害に遇われた方々に心からお見舞い申し上げますと共に一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

人間禅の新たな活動として始めました「禅フロンティア」ですが、おかげ様で一昨年4月の開催から昨年までに17回を終える事ができました。ひとえに皆様方のご支援の賜物と感謝申し上げます。本フォーラム前日からの剣道・茶道フロンティアも好評につき今年度は新たに俳句フロンティアも始まります。

まずは昨年のフォーラムを省みます。

<第9回>就活キャリアデザインと禅、<第10回>武道と禅、<第11回>コーチング理論と禅、<第12回>自殺者3万人の支援に学ぶ、<第13回>神道と禅、<第14回>企業人のリーダーシップと禅、<第15回>心と道德教育と禅、<第16回>音楽と禅、<第17回>グローバル時代のキリスト教と禅

15回までを通して初めて道場に来られた方が昨年9月の時点で187人、道場には来たことはあるが会員ではない方も含めると212人、その内初めて師家に参禅された方は112人でした。これだけの方々と机を並べ意見交換をし、坐禅を共にできたということに深い感慨を覚えます。

また、毎回専門の講師の方々と興味深いお話を、禅と双方から語り合えたということも意義深い事であったと感謝申し上げる次第です。

形のない禅の精神は、世の中のカテゴリーのどこにでも生き得てそれらを根底で支え精彩を付けられる可能性に満ちています。フロンティアは今年も幅広いジャンルの方々と共に学び合い交流を深め、より良い社会の建設に向けて歩を進めて行きたいと願っています。

今年度は＜第18回＞東西医療と禅、＜第19回＞アスリートと禅、＜第20回＞メンタルヘルスと禅を予定しております。多くのご参加をお待ちしております。

合掌

編集部注

禅フロンティアの開催日は、次のとおりです。タイム・スケジュール等は、次頁のちらしをご参照ください。

第18回 平成24年 1月29日（日）

第19回 " 2月26日（日）

第20回 " 4月1日（日）

H23.11.27 第17回

現代「キリスト教」と「禅」

今、そして未来へ。発信できる希望を考える。

今年3月の大震災で、私たちは人にとって何が本当に大切かを思い知りました。今までの心をリセットし、どう進むことがこの悲劇に真に立ち向かうことなのか模索すべきであると、日本人全体が受け止めた出来事であったと思われます。

一方、我が国は毎年3万人の自殺者が14年間も連続している国でもあります。自殺の予備者や悩んでいる人はその何倍にも及ぶであろうことは、想像に難くありません。

そうしたなかで、宗教は未来に向けてどのような一歩を進めようとしているのでしょうか。

今回はキリスト教と禅の立場から未来に向けての考察を試みます。キリスト教は信仰、禅は修行、一般に対極にあるように思われがちですが、さて、本当に違うものなのか、同じところはないのか、様々な角度からのフォーラムを行います。

今回はゲストに工学博士でクリスチャンの古谷圭一氏と、やはり工学博士で禅の師家である葆光庵老師をお迎えいたします。どちらも社会人でありながら、宗教家でいらっしゃいます。お二人にはこの立場からお話を伺いたく思っています。皆様も一緒に討論にご参加ください。

フォーラムの後は、心静かに本格的坐禅を体験する時間もお楽しみください。

*古谷圭一氏

工学博士。日本キリスト教団早稲田教会所属。
東京理科大学名誉教授、恵泉女学園大学名誉教授。
著書「自然科学とキリスト教」「科学者はこう考える—科学・技術・信仰」等多数。

*葆光庵春潭老師

工学博士。人間禅師家。「考えない力で日本再興」「心の教育と禅」「企業人の想像力開発と禅」「坐のすすめ、禅のすすめ」等、講演多数。
社会人の禅による人間形成を提唱。

【日時】 平成23年11月27日(日) ※参加はどこからでも。出入りもOKです。

午後 0:30	受付
午後 1:00~2:30	フォーラム
午後 2:45	坐禅
午後 3:15	参禅 (老師との一対一の禅問答、希望者のみ)
午後 4:00	茶話会
午後 4:30	終了

【費用】 2,000円

【場所】 禅フロンティア日本文化研修道場(人間禅沢木道場) 日暮里駅南口徒歩3分
〒110-0001 東京都台東区谷中7-10-10 TEL:03-3823-7647 FAX:03-5815-5921

【連絡先】 HP zenfrontier.org から問い合わせ願います。お気軽にご質問くださいませ。

代表・笠倉奈都 携帯 080-5047-9885

PCアドレス natsu@kxe.biglobe.ne.jp